

平成21年秋の一般公開

国宝高松塚古墳壁画 修理作業室の公開

公開期間：平成21年10月31日(土)から11月8日(日)まで



見学用通路の窓ガラスから見た修理作業室内



修理作業の様子



科学分析(顔料等調査)の様子



平成21年 春の公開時の様子

西壁女子群像(石材)の写真



西壁女子群像(拡大)



東壁女子群像(石材)の写真



東壁女子群像(拡大)



東壁青龍(石材)の写真



東壁青龍(拡大)



北壁玄武(石材)の写真



北壁玄武(拡大)



解 説

高松塚古墳の壁画は、凝灰岩切石ぎょうかいがんきりいしでつくられた石室の内側に、数ミリメートルの厚さで塗られた漆喰しっくいの上に描かれています。

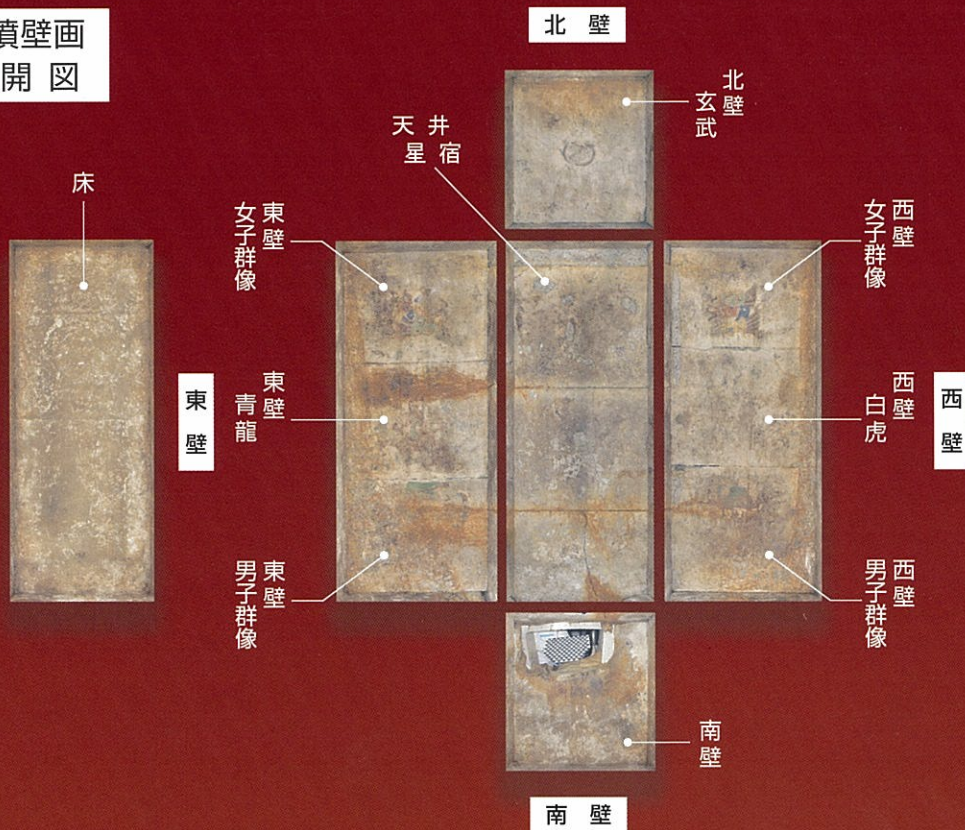
飛鳥美人あすかびじんの名で親しまれている女子群像は、石室西壁の最も北寄りに描かれていました。四人の女子が黄、薄桃、赤、緑の衣を着け、左右思い思いの方を向いています。頭の位置をあえてふぞろいにし、また四人を少しずつ重ねるように描くことで、人物の間に自然な奥行きを作り出しています。その手には「孫の手」のような形の「如意(にょい)」や柄の長い団扇状うちわの「円翳(えんえい)」を持っています。黒く長い髪は首の後ろあたりで束ねています。顔や衣の輪郭は柔らかな墨の線で描かれており、肌には淡い桃色を塗り、唇は鮮やかな赤色です。

同じく東壁の最も北寄りにも四人の女子が描かれていました。壁画の発見当初から顔を中心に絵画の多くの部分が失われていたのは残念ですが、画面に向かって左から薄桃、赤、黄、緑の衣を着けた女子が西壁と同じように描かれています。西壁の女子群像と比べると、こちらは頭の高さをそろえており、四人がより近い関係にあるように見えます。細かな表現方法にも西壁の女子群像と異なる点が見受けられます。左端の女子は手に「払子(ほっす)」状の持ち物(「蠅払(ようほつ)」)、右端の女子は赤い円翳を持っています。

東壁の青龍せいりゅうは、四神ししん(青龍・朱雀すざく・白虎びゃっこ・玄武)のうち東方の守り神とされ、東壁の中央に描かれていました。首をS字型にもたげ、前脚を前方に伸ばし、大きく開いた口には赤く長い舌が見えます。画像の左側は石材のすき間から流れ込んだ泥水によって失われています。壁面の上方には、金箔にちぞうを貼って日像(日輪)があらわされていますが、過去の盗掘とうくつのおりにでしょうか、人為的に削り取られています。

北壁の玄武げんぶは、北方の守り神であり、灰色の亀の上に青緑色の蛇が円を描くように巻き付いています。亀と蛇の頭が描かれていたとみられる中心部分が漆喰ごと失われているのは残念ですが、その形はキトラ古墳の玄武と極めて近いことが知られています。

高松塚古墳壁画
石室展開図



修理作業室
石材位置図



文化庁文化財部古墳壁画室
TEL: 03-5253-4111(代表)



平成21年10月

- ・主催：文化庁、(独)国立文化財機構奈良文化財研究所、(独)国立文化財機構東京文化財研究所、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教育委員会、明日香村
- ・場所：国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（奈良県明日香村・国営飛鳥歴史公園内）
- ・写真撮影：国立文化財機構奈良文化財研究所、文化庁